

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873500144		
法人名	株式会社 シルバーライフサポート木の実		
事業所名	グループホーム木の実		
所在地	茨城県日立市十王町友部東2-1-19		
自己評価作成日	平成21年6月10日	評価結果市町村受理日	平成21年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にて居宅介護支援事業・訪問介護・訪問入浴等の事業も行っており、入居前・入居後の在宅生活の支援も行っている事業者である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県酒門町4637-2		
訪問調査日	平成21年8月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅の近くに立地しているため、バスや電車を待つ時間にお茶を飲みに来る方がいたり、タクシーの運転手との関わり合いがあったり、近隣の小学生や中学生とのふれあいや、ボランティアが来てくれる行事の手伝いをしてくれたりと、地域とのつきあいがとても盛んなホームである。管理者は市の事業に携わっており、地区の民生委員の方に認知症についての理解を深めてもらえるよう説明したり、地域の方たちの相談を受けたりと、地域に貢献している。職員は、理念を念頭にケアに取り組んでおり、利用者に対する接しかたは温かく丁寧であり、利用者も穏やかな生活が過ごせているように窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にBS法を利用し関係スタッフ全員で理念を作成したので共有できており、努力している。	スタッフ会議などで、日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているか確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	バス・電車の待ち時間にお茶を飲みにくる方がいたり、行事等には近所の方が参加してくれている。日課になっている散歩時に公園等でも交流が持っている。	地域の行事や活動に参加したり、ホームの行事に地域の方が遊びに来てくれたり、ボランティアの来所があったりと、日常的に地域の方とふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地区社協の専門委員をしており地区の民生委員の方たちに認知症の人の理解や支援の方法を説明したり、地域人たちの相談を受けて各機関につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しサービスの向上や環境の整備等に活かしている。また地域住民代表委員の方に橋渡しをしていただき地域の方との交流が増えている。	2ヶ月に1回実施し、家族の代表や民生委員、地域住民の代表、利用者などが参加し、ホームの活動内容や評価の取り組み状況などについて報告し、意見をもらうようにしている。地域との交流が増えたり、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市介護保険課職員2名が参加してくれており取り組み等は理解してもらっている。また管理者が既存のグループホームの代表として市の高齢者権利擁護委員会の委員となり活動している。	管理者は市の事業に携わっており、色々な活動を通して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が社外研修にて受けてきたことを社内研修で伝達講習を行い、理解・実践している。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っている。玄関を施錠していたり、身体拘束をしていないことが確認出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が社外研修にて受けてきたことを社内研修で伝達講習を行い、理解・実践している。		

茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の社内研修を実施し、どちらも活用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日常生活自立支援事業や成年後見制度の社内研修を実施し、どちらも活用している利用者がいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族とスタッフが必ず話すようにしている。家族に定期的に記名・無記名のアンケートを実施し活用している。利用者にもアンケートの実施。介護相談員(月1回)の来所も活用している。	家族会を年2回実施したり、家族や利用者アンケートを実施したり、面会時に必ず声をかけ意見や要望等聞くようにしている。出された意見、要望等は話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見・提案を聞く機会の場を設けている。	スタッフ会議や個別に意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・賃金規定(パートタイマーを含め)を定めている。またキャリアパス制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を作成し実施している。また能力に応じた社外研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のケアマネ会に参加、社会福祉協議会主催の交流会に参加したり、社外研修で知り合った他グループホームの方と相互訪問したりしている。		

茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査の段階から不安・要望等を聞き本人が安心できるように説明している。また入居前に何度か遊びに来てもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に必ず家族から要望等を聞き、またケアプラン作成時の資料の同意を得て生活歴・要望等を書式に記入してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の担当ケアマネ・家族・本人と話し合い、本人に合った対応や支援方法を予測を含め検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ・利用者を含めた共同生活を念頭において、各自(スタッフ・利用者)のできることでの役割作りや、助け合いにて信頼関係の確立を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割としてできることは家族としてやっていただいている。(通院・散髪・選挙)また正月・お盆等家族が集まる時は外出・外泊をお願いし、不可能な時は家族でホームに遊びに来てもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みな場所での散髪・買い物や、馴染みの人がホームに遊びにこれるよう家族と共に支援している。	馴染みの場所や馴染みの人を、本人や家族に聞き取り、情報を得るようにしている。家族に協力を得ながら、馴染みの場所に出かけたり、知人が遊びに来る機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットをこえて関わり合いがもてるようにしており、時にはユニットの変更も行っている。また共同作業等にて関わり合いを持つように意図的にセッティングしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望する時には行っている。(本人・家族・施設等への協力)また在宅に戻る場合には社内のケアマネが担当することもできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人・家族から聞き取り、またセンター方式のシートを活用している。	センター方式を活用し、本人に尋ねたり家族から情報を得るようにしている。日々の関わりの中で得た情報は、スタッフ会議で話し合いが行われ、全職員が情報共有出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人・家族から聞き取り、またセンター方式のシートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時経過観察しており、その時にあった支援をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者より意見要望を聞き、スタッフ会議にて各スタッフの意見やアイデアを聞きプランを作成している。意見やアイデアがプランに反映しない場合はできない理由等を本人・家族・関係者・各スタッフに説明している。	本人や家族から、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。スタッフ会議で、意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っており、話し合った事も記録している。利用者の状態の変化に合わせて介護計画も変更している。	介護記録に沿った個人記録にしていく事で、介護計画を見直したり評価がしやすくなるので、介護計画についての勉強会を行い、職員の介護計画に対する意識を高めて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・引継ぎ記録を活用し情報の共有を図っている。またこれらをモニタリングの資料の一部にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族ができないときは家族の代行(外泊時の送迎・理髪店の付き添い・入退居時の引越し等)を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいサロンの活用、図書館の利用、祭り・運動会への参加。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用。駐在所・消防・JR・タクシー・近隣商店への協力要請。		

茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にも協力してもらい主治医への定期受診・健康診断・個別検査を実施しており、協力医療機関からの往診も受けられるようになっている。	事業所の協力病院の他、本人や家族の希望する病院で医療が受けられるよう、家族と協力し通院介助お行ったり、往診に来ていただいたり、複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内看護師に随時相談することもでき、受診や看護が必要と思われる時は協力医療機関に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ずスタッフが付き添い病院関係者との情報交換や相談している。過去の実績で関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を定めており早い段階から本人・家族等と話し合いを行っている。また協力医療機関からの協力も得られる。	看取りについて、職員はホームの方針を理解している。早い段階から、本人や家族等と話し合いを行っており、事業所ができることについて説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施しており、消防署より非難の打ち合わせや指導を受けている。	火災や地震を想定した訓練を利用者と一緒に毎月行っており、消防署からのアドバイスを受け訓練に活かしている。災害時の備蓄が準備されており、地域から協力が得られるように働きかけも行っている。	

茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて理解を図り、随時指導している	一人ひとりを尊重したケアを行っており、社内研修やスタッフ会議などで、言葉かけや対応についての勉強会や振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話しを聞いたり、場所を変える等工夫して自己主張・自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース・希望を大切にして支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	購入・理美容等は家族の協力も得てできている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて役割設定が出来ており、食事関連の流れが出来ており楽しむことが出来ている。	利用者の好きな食べ物や旬の食べ物を提供している。一緒に食材の買い物に出かけたり、食事の準備をしたり、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記録で残してわかるようにしている。個別に形状を変えたり、器等も変えている。定期的に献立を社内栄養士に見てもらい指導を受けている。また必要に応じて協力医療機関より個別に管理栄養士の指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じて支援を行っている。		

茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録するようにし、検討し段階的に自立に向けた支援を行っている。	職員間で取り決め事をつくり、さりげなく声かけし誘導するようにしている。排泄チェック表を記録し、利用者の様子を観察しながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の内容検討や運動を実施している。また個別に主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが希望があるときは支援している。また極力本人の希望する時間帯に行うようにする。	入浴日は決まっているが、利用者の希望に合わせた時間に、入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠・休息は本人のサイクルに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容・副作用とわかるようにファイリングし活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割を設定したり、趣味等行えるよう支援している。家族の協力を得て外出・外泊の協力、本人の希望に応じた行事の設定。		



茨城県 グループホーム木の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り外出支援(散歩・買い物等)行っている。行事での外出時は家族・ボランティアの協力を得ている。	利用者の希望に応じて、日常的に散歩や買い物に出かけている。お花見など、季節に合わせた外出では、家族やボランティアの協力を得て、積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて所持管理の支援、買い物時の支払い支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望し相手先が了承している場合は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している	共用空間は清潔に保たれており、観葉植物が置かれていたり、小物を飾って季節感を採り入れたりしながら、利用者にとって居心地の良い空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものの持込・本人の能力・好みに合わせてセッティングを心がけている	家具や思いでの品々が持ち込まれていたり、利用者の希望に合わせた、職員の手作りの縁台が置かれていたり、居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフで話し合い環境整備を行っている		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	職員の介護計画への意識が低く、日々の個別記録の記入へ反映されていない	職員全員が介護計画を理解し、常に介護計画に沿った支援が出来るようになり日々の記録の中で確認できるようになる。	①スタッフ全員が介護計画作成に携わる。 ②日々の個別記録を介護計画の中の具体的なサービスの実施の有無やモニタリングなどが記載できるような書式変更を検討していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。